

沖縄県教育庁島尻教育事務所 上原雅志所長の講話
「教師に望むこと」

去る2月25日(水)に沖縄県教育庁島尻教育事務所 上原雅志所長をお招きして、「教師に望むこと」と題した講話をしていただきました。

ご自分の小学校からの経験を振り返り、心の安定を図るためには環境が大切であること、心の不安が行動も不安定にし、学びの妨げになること、学びのためには「やったらできる」という成功体験にも続く、自尊感情を高めることが重要であることを実話に基づいて、お話して下さいました。

そして、未来の人材をつくり大きな責任とそれを成し遂げようとする「情熱」と「誇り」を持った教師になってほしいと熱く語って下さいました。

研究員の皆さんにとっては、学びの多い貴重な時間となりました。



写真1 上原雅志所長を囲んで

【講話の主な内容】

1 私自身の学習に係ることから

- (1) 小学校のころ
- (2) 中学校のころ
- (3) 高等学校と大学
- (4) 教師になってから

2 さて、あなたはどのような教師を目指しますか。

3 特に現在社会における学校の役割

4 教師に求められていること

- (1) 子どもの良さを引き出し伸張させること
- (2) 自尊感情を高めること
- (3) 毎日の生活が明るくたのしく生き生きと過ごさせてあげること
- (4) 夢や希望を広げ社会に貢献できる人材を育てること

5 どうして自尊感情を高めることが必要か

6 授業づくりは一番の生徒指導

7 望む教師像

- (1) 子どもに愛情を持って寄り添い情熱のある教育実践ができる教師
- (2) 高い人格を有し人間味溢れる教師
- (3) 教育の専門家である教師
- (4) 授業が上手な教師

8 教材研究とは

9 社会の変化

10 これからの授業をどのようにする？

- (1) 子どもはみんな本当の知恵を持っている。
- (2) 4つの質問の違いはなんでしょうか。

11 笑顔で明るく希望に満ちた誇り高い教職生活にしよう！

- (1) ネガとポジを入れ替えよう
- (2) 次代を担う子ども達を育てる崇高な職業だとほこりを持つよう。
- (3) 学校だけでは出来なくなっているので保護者や地域と共に歩もう。
- (4) 多くの困難はあるが仲間と協働して解決していく姿勢でいこう。
- (5) 1人の教師の責任にしないという雰囲気のある学校にしていこう。
- (6) 教師の一生懸命さは必ず伝わることを信じて諦めずにかかわっていこう。
- (7) 日々の小さなことに気づき考え行動しよう。
- (8) 大きなことを実行するのは難しいが小さなことを仕掛けて実践し、大きなことにつなげていこう。

皆さんの研究の成果が各学校にたちまち還元されていくものになることを祈っています。

後期教育研究員の感想（研修日誌から）

島尻教育事務所長講話では、教師としてどう子ども達と関わっていけばいいのかを考えさせられました。講話の前半に学生時代に授業が楽しい、学ぶことが楽しいと感じたのは、その先生が専門性をもっていたからだと話されていましたが、そのように専門性をいかして子ども達の心に残るような教師を目指していきたいと思いました。また、「自尊感情」という言葉が強く心に残りました。自尊感情を高めることは、中学校での問題行動の改善にも授業改善にもつながることであり、幼児期においても自分が全面的に受容されるという経験がとても重要であることが分かりました。教師はありのままの子どもを受け入れることで安心感を与え、自信につなげていくことが大切だと思いました。子どもの困った行動ばかりに目を向けがちでしたが、一人一人の良さをたくさん見つけられるようにしていきたいです。資料もたくさん準備していただき、読むだけで心が熱くなるものもありました。じっくり読みかえして今日のお話と結びつけていきたいと思います。上原雅志所長、ご講話ありがとうございました。（稲嶺あゆみ）

上原雅志事務所所長の講話を聴きながら、自分はどのような教師を目指していたのだろうかと考えました。講話の中で自尊感情という言葉が何度も出てきました。児童の中には、自分に自信のない子がいます。その子へどのような手立てをとっていただろうかと改めて考えさせられました。自分のことが好きだという気持ちをもつ子を育てるためには、その子を認め、分かってあげることが大事だと思います。そのために、児童と真剣に向き合って話を聴くよう心掛けたいと思います。また自尊感情を学校で高めるには第一に学習が分かることだということも話されてきました。分かると自信に繋がり、次への意欲にも繋がる。学習を理解させるためにも実態を把握し、授業の楽しさを感じられるよう教材研究をしっかりと行うことが大切だと思いました。また「他者と協働・協調できる力」や「話し合い学び合って解決できる力」が求められていることも話していました。コミュニケーション能力、判断する能力なども学級で育てていかなければならないことであり、今道徳で研究していることとも関わりのあることだと思いました。今日の講話は、教師としての自分を振り返り、新たな目標をたてるよい機会となりました。（安座名有里）

上原雅志事務所長の講話を聞いて、私はどんな教師を目指しているのかを振り返ってみました。子ども達が「毎日学校に行きたい。」と感じるクラスを作りたいと今でも思っています。そのためには、二つの点を意識したいと思いました。一つ目は、教師の専門性の高さです。学ぶわくわく感や新たな発見ができるような授業づくりをしたいです。二つ目は、子どもを認めてあげ、居場所を作ってあげる学級づくりです。学習に対する準備と子ども達を受け入れられる広く豊かな心で接することが大切だと思うので強く意識したいです。課題としては、その学年で身に付けさせることは徹底して教え、身に付けさせることです。小学校は全ての学習の基礎になるので、その子のために努力したいと思います。進学後、不登校になる原因のひとつに学力が身につけていないことがあると聞きました。担任としての責任感を強く持ち対応したいと思います。上原雅志教育事務所長の講話を聞いて、教師として責任感が増しました。何事にも応えられよう協働体制の確立や研修に励みたいと思います。ご講話ありがとうございました。（勢理客貴之）

初めに上原雅志事務所長の体験を伺って、何かうまくいかない時には人のせいにするのではなく、自分を振り返り、変えていくことが必要だと改めて思いました。次に「あなたはどのような教師を目指しますか」という問いについて考えてみました。子どもの成長を支えていける力のある教師になるための努力を続けていける教師になりたいと思いました。「社会の変化」の所では、これからは、他者と協調・協働できる力が必須とありましたが、この島尻教育研究所で学んだことを基にして、子ども達が共に育っていけるような環境を作っていきたいと考えさせられました。

また、今日の講話の中で「子どもに自尊感情を持たせて欲しい。」という言葉がよく出てきました。確かに成長の基盤となることだと思います。学級で子どものいい所を認め、賞賛しようと思いました。（比嘉俊雄）

中学生の頃の水泳がご自身の自尊感情につながっていったお話から、生徒の自尊感情を育みたくても、心の安定だけではなく学力の安定も必要とすること、自尊感情が幼児時における親の養育態度に関係があるということ、家庭に居場所があるということがどんなに素晴らしいかということ、人との信頼関係の基礎は幼児期にあるということ、ありのままの自分を受け入れてもらった者は、自分を受け入れた者だけでなく、その周囲をも信頼していくということ等学びました。頂いた資料は、教師にとっては耳の痛い内容が多く、敢えてこのような資料を提供されたのは、教師という職にさらなる熱意と誇りを持ち、やはり教師でなくてはできない仕事だと周囲の納得を得ることが大事で、周囲に認められて初めて教師としての資格が生まれるのだというメッセージを伝えたかったのではと受け止めました。私達は教師としての資質のみならず、社会の変化にも対応していけるだけの資質も必要とされています。生徒にこの資質を身に付けさせていくことも私達の務めだと思うので、他者と協働・協調できる力を生徒にも育んでいきたいと思っています。上原教育事務所長、ご講話ありがとうございました。（古謝栄子）